

山梨大学附属図書館報

やまなし

2022.10.31

vol.20

no.1

contents

- 2 図書館と私
- 4 図書館利用者の声
- 5 学生にすすめる本
- 6 図書館統計
- 7 図書館トピックス
 - 「高橋 理 CD Collection」を新設しました [本館]
 - メディカルオンライン利用開始について
 - 国立国会図書館-個人向けデジタル化資料送信サービスのご紹介
- 8 今後のイベント紹介
 - 「生と死のコーナー」関連行事 講演会 [医学分館]

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library

図書館と私



ウカ タカノリ
山梨大学附属図書館医学分館長 宇賀 貴紀

この度、2022年4月付で附属図書館医学分館長を拝命しました宇賀貴紀です。喜多村分館長の後を継ぎまして、質実な図書館運営に努めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

私はあまり本を読むタイプではありません。中高時代、故郷の浜松市の中央図書館には定期的に自転車で通い、お世話になった経験はありますが、苦手だった国語の家庭教師の先生に「もっと本を読みなさい」と叱咤される始末。教えを守り、大学の最初の1年間はひたすら本を読む日々を過ごしました。

そのようなこともあり、大学時代、図書館は憩いの場になりました。教室、部室など、活動の場はありましたが、一人になりたいときは図書館。特に夏バテになったときには冷房を求めて図書館に行き、机にうつ伏せになりながら、なんとか生活していた記憶があります。

医学部3年生の夏休み、脳科学の研究室に出入りするようになってから、医学図書館に入り浸るようになりました。今は亡き伊藤正男先生、塚原仲晃先生、酒田英夫先生など、日本を代表する脳科学の重鎮の先生方が一般向けに書かれた書籍を、図書館のソファに寝そべって読みあさり、脳の研究をしたいという夢を膨らませていきました。今の私の原点です。当時はインターネットが発達していなかったため、大学院時代までは、本や論文の巻末に書かれていた引用文献を図書館で入手していました。データベースで文献を逐一検索し、書架まで足をはこび、分厚い雑誌集の中から必要な部分だけをコピーし、図書館で読みふけていました。

図書館はそんな憩いの場だったのですが、博士研究員としてアメリカに留学した時に全てが一変しました。研究室の自分の席からオンラインで論文がダウンロードできるようになったのです。最初は最新論文だけだったのですが、過去の論文も次第にオンラインで閲覧できるようになり、図書館に行く理由がなくなってしまいました。私が留学した大学の図書館は非常に立派で綺麗で、是非とも利用したかったのですが、そこに行く必要性が薄くなり、憩う暇もなくなったことで、図書館と私の縁は一旦切れてしまいました。

それから20年が経ちました。今では、小さい我が子たちを公立の図書館に連れていき、紙芝居を読んであげたり、本を選んであげたりする以外に図書館に足を踏み入れることはなかったのですが、この度、附属図書館医学分館長を仰せつかることになりました。そこで改めて、大学図書館の役割について自分なりに考えをまとめることにしました。

現代の大学図書館の役割としては、オンラインコンテンツを充実させることが最重要でしょう。大学は高等教育の場であり、最先端研究の場でもあります。これらの場を充実させるには、図書館が教育・研究に関する資料を最大限に提供する必要があります。電子ジャーナルがその際たるもので、いかに皆さんが満足するようなラインアップをそろえるのか、は大命題です。どのジャーナルにもアクセスできる、が理想的ですが、現実には電子ジャーナルの価格高騰のため、豊富にラインアップをそろえるのは困難でして、実際、レビュー雑誌などの契約はほぼ皆無です。ですので、図書館ユーザーの皆さんがどの雑誌の論文をダウンロードできなくて困っているのか、その情報を精密にカウントし、皆さんのご要望をまとめて、小さい大学ならではの柔軟な戦略で、最適なラインアップを提供するのが最善だと考えます。今後、オープンアクセスジャーナルへの移行がますます進むことが予想されるため、電子ジャーナル購読料に対する考え方にも柔軟性を持たせ、臨機応変に対応できる準備もしたいと思っています。また、電子教科書など教育教材の導入にも対応できればと考えています。

一方で、図書館利用者の皆さんに憩いの場を提供するのも図書館の大事な役目だと感じています。私の6歳の息子は車が大好きで、図書館に行くとき自ら乗り物のセクションに行き、面白そうな本を手に取り、吟味してから借りるかどうかを決めます。インターネット時代の現代、オンラインで検索すれば、自分の興味のありそうな本にヒットすることはできるでしょう。しかし、その本が本当に自分に合っているのか、注文してから確認するより、本屋さんで立ち読みする気分で、何気なく本を手にとって、ソファで寝っころがって吟味する。それも落ち着いた憩いの時間なのではないかと思います。附属図書館医学分館がそのような憩いの場になるよう、充実させるのも使命だと感じています。

そんな憩いの場を医学部学生の皆さんに提供できる可能性があるところとして私がお薦めなのは2階の第3閲覧室です。和文の医学図書が充実している書架で、教科書類をメインにラインアップがそろっていますが、そのなかには一般向けの読みやすい本がそろっています。私の専門分野の神経科学のコーナーにも、書架の片面いっぱい一般書が並んでいますが、それよりも「9-W医学」に足をはこんでください。医学倫理、がん、海外留学など、医学部生であれば誰もが興味を持ちそうな内容を一般向けに解説した本がたくさん並んでいます。手に取って、吟味して、読んでください。そして、将来の自分の姿を想像してみてください。図書館は夢を膨らませる場です。1人でも多くの学生が、附属図書館医学分館で将来を描けるようになれば本望です。ちなみに、2階にはソファはありませんので、私の任期中に充実できれば、と妄想しています。





大学院医工農学総合教育部
生命環境学専攻2年
ヒラタ ケイスケ
平田 佳佑

読書が人生を豊かにする

突然ですが、皆さんは読書をされていますでしょうか。文化庁の調査によると、1ヶ月に一冊も本を読まない人は全体の47.5%もいるそうです。読書がなんとなくためになりそうだと考える方は多くいらっしゃると思いますが、なかなか習慣付かないというのが現実なのではないでしょうか。そこで、私が提案したいのは、自分の好きなものに関する本を図書館で借りてみるということです。大学の図書館には、ご自身の専門分野に関する本は勿論、新聞・雑誌・外国語の本など今まで触れてこなかった分野の本があるはず。自分が関心のない分野の本を継続的に読むというのは、なかなか難しいことですが、自分が興味のある分野の本というのは、ワクワクしてどんどん先を読みたくなりま

す。読書は、ストレス解消になることも知られているので、寝る前のリラックスした時間に読んだり、移動時間に読んだりしてみるのも時間の有効活用に繋がるかもしれません。

現に私もあるPodcastの歴史系のラジオを聴き、仏教や世界史に興味を持ち、図書館で本を借りたところ。図書館にない本も「リクエスト」することで、図書館に置いてくれることもあるので、是非利用してみてくださいね。

‘あなたが絶対に知るべき唯一のものとは、図書館の場所である’かの有名なアルベルト・アインシュタインがこのような言葉を残しているようにあなたも目眩く本の世界に足を踏み入れてみてはいかがでしょうか。

図書館利用者の声

医学部看護学科4年
ミツイ アイリ
三井 愛里

学びを支えてくれる場所

1年生の時は甲府キャンパス、2年生からは医学部キャンパスの図書館を利用しています。医学分館には医学・看護系の本が取り揃えられており、学習に役立っています。学年が上がるにつれ、より専門的な内容の勉強が始まってからは図書館の利用頻度が多くなり、また様々なサービスを利用する機会も増えました。疾患やケアの学習をする際、レポートや課題に取り組む際など、多様な本・資料を使い学習することで深い学びができています。4年生になってからは看護研究が始まりましたが、図書館では書架やインターネットで文献を探ることができたり、文献を取り寄せるサービスが利用できたりと、研究を進める上で図書館は必要不可欠な存在となっています。

山梨大学附属図書館医学分館は申請を行えばほぼ24時間利用可能である点がとてもありがたいです。特に試験前や実習中は、夜間・休日にも図書館を利用することが多いのですが、専門書がすぐ手に届く環境で勉強できることで、効率よく学習をすすめられます。また、落ち着いた集中できる空間で、他の学生の頑張っている姿に刺激を受けながら学習に取り組むことができる図書館の充実した環境は、私の学習の支えになっています。

図書館は私の学びを様々な面から支えてくれている場所です。図書館を利用できること、またそれを支える職員の方々に感謝し、これからもたくさん利用していきたいです。

工学部 応用化学科

クワバラ テツオ

桑原 哲夫 教授

電車に乗っていると色々な人に出会う。横須賀線の上り電車に乗り込んできたのは、お世辞にも身なりの綺麗とはいえない少女である。少女は周囲に頓着することなく電車の窓を開けようと試みる。そして、トンネルを抜けるや開けたれた窓から少女が放り投げた蜜柑の先に見えたのは…。芥川龍之介の『蜜柑』である。

東京へ向かう東海道線浜松辺りでは、隣に座った髭の男が富士山や東京について話しかけてくる。これは、ご存知夏目漱石の『三四郎』である。「熊本より東京は広い。東京より日本は広い。日本より……、日本より頭の中のほうが広い。」彼によれば、何かにとらわれることなく自分の頭で考え、日本一の名物を作り上げることが

肝心という…現代にも通じる漱石からのメッセージである。主人公の三四郎は大学に入るために上京するのであるから、設定は学生の皆さんと同じ年頃である。

また、電車の中で十七文字の詩が浮かべば詩人にもなれるとは、漱石の『草枕』である。電車の中でふと新しいアイデアが浮かんだりするところは研究者にも通じる。不人情ではなく非人情の世界を描く『草枕』を何度となく読み返す。山路を登って石に躓くまでの思考の漂流が、とても心地良く感ぜられる。

秋晴れの週末、本を片手に電車に乗ってみれば、何かしらの出会いが蜜柑色の放物線を描いてやってくるかもしれない。

芥川龍之介

『蜜柑；尾生の信：他十八篇(岩波文庫)』

所蔵あり

本館・2F文庫新書書架 913.6/MIK

夏目漱石

『三四郎(岩波文庫)』 本館・2F文庫新書書架 913.6/SAN

『草枕(岩波文庫)』 本館・2F文庫新書書架 913.6/KUS

学生にすすめる本

医学部 生理学講座神経生理学教室

キタムラ カズオ

喜多村 和郎 教授

『脳の大統一理論』なんとも仰々しいタイトルの本である。その割に、B6サイズでたかだか120ページあまりの本で、1日あれば読めそうである。なんだかあやしい理論か？とも思われ、副題「自由エネルギー原理とはなにか」を見て、脳と自由エネルギー？とさらに混乱する人も多いのではないだろうか。本書は、UCLの神経科学者カール・フリストンが15年くらい前に提唱し始めた、脳機能を統一的に説明する理論である「自由エネルギー原理」を解説した入門書である。

脳機能とひとことで言っても、知覚、認知、運動、意思決定や思考、感情、意識などその内容はさまざまである。これまでの神経科学では、脳のどこにどのような機能があるのか、各機能がどのような脳活動と対応しているのか個別に研究が進められてきた。何らかの共通原理が存在するとは

乾敏郎・坂口豊

『脳の大統一理論：自由エネルギー原理とはなにか』

医学分館2階開架図書(第三) WL300:NOU

トーマス・パー、ジョバンニ・ペッツーロ、カール・フリストン [著]；乾敏郎訳

『能動的推論：心、脳、行動の自由エネルギー原理』

医学分館2階開架図書(第三) WL103:NOU

思われているが、全ての脳機能を説明でき得る理論や原理はなかった。「脳は推論によって機能を実現する」というただ一つの考え方に基づいて構築されたこの原理によって、それが可能になるというのである。さらには、脳の機能発達やその障害、精神疾患、進化までも説明できる可能性があるということ、神経科学のみならず、医学や心理学、情報科学から哲学に至るまで多くの分野で注目を集めている理論である。自由エネルギーというのはどういう意味かは、ぜひ本書を一読して知ってほしい。

脳に関心がある全ての人に薦めたい一冊である。本書で物足りない人は、フリストン自身らによる著書の邦訳『能動的推論』（ミネルヴァ書房）が最近出版されたので、そちらに挑戦してみることをおすすめする。

1 図書館利用統計

(1) 開館日数・入館者数

区分	開館日数	入館者数(人)		
		学内者	学外者	合計
本館	272日	51,520	7	51,527
分館	286日	83,109	6	83,115



(2) 館外貸出冊数・参考調査取扱件数

区分	館外貸出冊数(冊)				参考調査
	学生	教職員	学外者	合計	件数
本館	16,267	3,016	7	19,290	2,039
分館	8,862	2,934	2	11,796	2,006

(3) 相互利用

区分	貸借(単位:冊)		文献複写(単位:件)	
	貸出	借受	受付	依頼
本館	101	165	602	677
分館	33	19	1,483	1,174
合計	134	184	2,085	1,851

(4) 子ども図書室

開館日数	27日
入室者数	94人
貸出券発行人数	3人
蔵書冊数	4,809冊
貸出冊数	222冊

2 図書館蔵書統計

(1) 図書・雑誌蔵書数（R4.3.31現在）

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	340,140	123,668	463,808	7,588	2,516	10,104
分館	56,998	41,623	98,621	1,976	1,318	3,294
合計	397,138	165,291	562,429	9,564	3,834	13,398

(2) 図書・雑誌受入数（R3年度）

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	1,955	71	2,026	528	35	563
分館	1,399	8	1,407	286	19	305
合計	3,354	79	3,433	814	54	868

「高橋 理 CD Collection」を新設しました



この度、附属図書館本館に「高橋 理 CD Collection」を新設しました。

これは、故高橋理元本学教育学部教授が生前に収集されていたクラシック音楽のCD（2,704タイトル）をご遺族から寄贈され、3階視聴覚室に設置したものです。

本コレクションは、世界的に著名な音楽家の作品が幅広く収集され、国内では入手が難しい音源も含まれており、本学の教育研究の貴重な資料になることが期待されます。

なお、新設にあたり、一部の棚板を古本募金により購入しました。

メディカルオンライン利用開始について



令和4年度6月より医学文献検索サービス「メディカルオンライン」の利用を開始しました。本サービスは、国内発行の医学関連の約390万文献（1,500ジャーナル）を収録し、これらの文献検索・全文閲覧を可能とするものです。また、それ以外にも、医薬品を探す「くすり検索」、医療機器を探す「プロダクト検索」などもご利用いただけます。

本学内の両キャンパスからはIPアドレス認証で接続可能であり、学外からはリモートアクセス（VPNおよび学認）での利用も可能です。

国立国会図書館-個人向けデジタル化資料送信サービスのご紹介



令和4年5月19日より、国立国会図書館が「個人向けデジタル化資料送信サービス」を開始しました。国立国会図書館デジタルコレクションで、公開範囲が「図書館・個人送信限定」の資料が対象です。

これにより、国立国会図書館に利用登録（本登録）をした方は、個人の端末でデジタル化資料を利用できるようになりました。利用登録自体もオンラインでできますので、ぜひ登録して学習・研究にお役立てください。未登録の方は、本館館内特定端末で対象資料を閲覧することができます。

なお、サービス開始当初は閲覧のみですが、令和5年1月を目途に印刷機能の提供が開始される予定です。

山梨県立大学との図書館相互利用推進について

山梨県立大学との図書館相互利用推進の一環として、文献複写・現物貸借サービスの送料無償化、複写料金や現物貸借の条件の統一を実施しています。

文献複写・現物貸借の送料	無償化(利用者の負担なし)
文献複写・現物貸借の対象資料	図書館所在資料のみ
複写料金	白黒：20円/枚 カラー：40円/枚
現物貸借の条件	1人あたり3冊まで、貸出期間1ヶ月(輸送期間含む)、延長不可、館外利用可

今後も利用推進に向けて両館で検討を進めますので、ぜひ図書館をご活用ください。

申請により、山梨県立大学の学生証・教職員図書館利用カードが山梨大学附属図書館の貸出カードとして利用可能となります。詳細はホームページのお知らせ・利用案内をご覧ください。

今後のイベント紹介



山梨大学附属図書館医学分館「生と死のコーナー」関連行事 講演会

「死ぬまでどう生きるか」の選択を支えるために 日本の医療者が今、身に着けておくべき知識と技術

- 講師：佐々木 淳氏（医療法人社団悠翔会理事長・診療部長）
- 日時：令和4年11月16日（水）18：00～19：30
- 参加方法：Zoomミーティング
 - ◇本学所属者：学内掲示板、YINS-CNSで接続先をお知らせします。
 - ◇それ以外の方：医学分館（servmed@yamanashi.ac.jp）にお申込みください。

医学分館では、令和4年度「生と死のコーナー」関連行事として、医療法人社団悠翔会理事長・診療部長の佐々木淳先生を講師にお招きし、講演会を開催します。

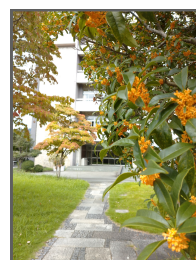
医療関係者の方、一般の方問わず、関心のある方は是非、ご参加ください。

◆イベント詳細については、ポスター・パンフレット・山梨大学附属図書館ホームページ等でお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしています。

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、通常山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できますが、現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学外者の方の利用をご遠慮いただいています。

最新の情報については、<https://lib.yamanashi.ac.jp/>をご覧ください。本館 Tel:055-220-8066、医学分館 Tel:055-273-9357 にお問い合わせください。



● 表紙：A1号館
場所：A1号館（図書館職員 撮影）

山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第20巻第1号
2022年10月31日 発行
編集：館報編集委員会
発行：山梨大学附属図書館
〒400-8510
甲府市武田四丁目4-37
TEL 055-220-8063